

令和2年度第1回 習志野市総合教育会議 会議録

日 時：令和2年12月23日（水） 午後3時10分から午後4時10分まで

場 所：習志野市庁舎3階 大会議室

委員出席者：宮本泰介市長、小熊隆教育長、古本敬明教育長職務代理者、赤澤智津子委員、高橋浩之委員、馬場祐美委員

説明員出席者：【学校教育部】

天田正弘部長、遠藤良宣次長、中野充教育総務課長、利根川賢主幹（教育総務課）、野村健一学校教育課長、大塚良子主幹（学校教育課）、金子貴也係長（学校教育課）、津枝千春指導主事（学校教育課）、杉山健一指導課長、荻原洋係長（指導課）、笹生康世総合教育センター所長

【生涯学習部】

塚本將明部長、村山典久次長、藤原友哉社会教育課長、妹川智子主幹（社会教育課）、三橋智生涯スポーツ課長、河栗太一中央公民館長、岡野重吾中央図書館長、加藤努青少年センター所長

【こども部】

小平修部長、芹澤佐知子次長、江口浩雄副技監、齊藤洋介こども政策課長、篠宮淳一こども保育課長、永田容子主幹（こども保育課）、青野孝幸主幹（こども保育課）

【健康福祉部】

埴久子主幹（健康支援課）

事務局出席者：竹田佳司政策経営部長、江川幸成政策経営部次長、越川智子総合政策課長、高橋宏明企画政策係長、渡部祐樹主査、播摩泰子副主査

議 題：（1）新型コロナウイルス感染症への対応について
（2）習志野市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針（案）
について

会 議 資 料：「新型コロナウイルス感染症への対応について」 ※別添
「習志野市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針（案）
について」 ※別添

令和2年度第1回 習志野市総合教育会議 会議録

議 事 録 :

宮本市長	<p style="text-align: center;">開 会</p> <p>開会にあたり、宮本市長より挨拶 出席委員は、6名のうち6名であるため、本会議は成立した。</p> <p style="text-align: center;">議 事</p> <p>日程第1、会議録の作成等について諮る。 会議録は、要点筆記とし、会議名、開催日時、開催場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載した上で、非公開の審議事項を除く記録について、本市ホームページ及び市役所グランドフロアの情報公開コーナーにおいて、公開することについて諮り、了承を得る。 日程第2、会議録署名委員の指名について、馬場委員の指名について諮り、了承を得る。 続けて日程第3、協議について。協議事項(1)「新型コロナウイルス感染症への対応について」説明を求める。</p>
杉山指導課長	<p>資料1に沿って説明する。</p> <p>1、小・中学校、(1)教育課程の変更について。今年度教育活動を始められたのは実質6月1日からであった。分散登校で学級を半分に分けて授業を行うことから始まった。約2カ月分の学習の遅れに対応できるよう、夏休みを8月1日から16日までの約2週間に短縮して、2学期は8月17日から12月23日までとした。この間、9月には2回、土曜日に授業を実施し、各教科と学校行事等の時間を確保してきたところである。</p> <p>各学級での教育活動においては、新しい学校の生活様式を定めて感染症対策を講じた上で、教育活動を進めているところである。</p> <p>(2)主な行事について説明する。2学期に代替も含めて実施したものである。中学校総合体育大会、小学校陸上大会、運動会については、そのものとしては実施できなかったところはあるが、何らかの形で実施した。</p> <p>修学旅行については、宿泊中止となったが、小学校、中学校ともに日帰り計画を立てているところである。既に実施している学校もある。</p> <p>こうした教育活動と並行して、学校再開後は心のアンケート等を実施しながら子どもたちの心を捉えることを努めている。</p> <p>(3)学びの保障における人的支援について、コロナの影響で学校では感</p>

令和2年度第1回 習志野市総合教育会議 会議録

	<p>染症対策に関する業務が新たに発生している。教員が子どもと向き合える時間を少しでも多く確保できるよう県の事業等を活用してこのサポートスタッフ等を配置した。</p> <p>次に、2、習志野高校、(1)教育課程の変更について説明する。5月からの段階的分散登校を経て6月17日から平常登校を開始した。夏季休業は8月1日から31日までとなっている。</p> <p>(2)主な行事について、球技大会、体育祭は中止として、文化祭は縮小して校内発表を行った。修学旅行は中止となったが既に日帰りの旅行を代替として実施した。</p>
<p>笹生総合教育センター 所長</p>	<p>習志野市総合教育センターでは、臨時休業中の子どもたちの家庭学習を支援するために学習動画を作成してきた。今後万が一感染症や災害等による臨時休業があっても子どもたちの学びを止めないよう、貸与できるモバイルルーター850台及びタブレット端末3,000台を整備した。今年度末までに整備される1人1台のタブレット端末を学習や家庭との連携、学校のデジタル化に向けて、有効的に活用するために、習志野市ICT教育環境整備プロジェクトを立ち上げた。これまでにオンライン授業実施のための研修、導入されるソフト活用に関する研修を行ったところである。</p>
<p>藤原社会教育課長</p>	<p>生涯学習部の対応について説明する。公民館、図書館、習志野文化ホール、スポーツ施設等の各生涯学習施設については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために2月29日から5月31日まで臨時休館した。</p> <p>その後、国や県の方針、習志野市版新しいルール、各種ガイドラインに基づき、利用制限や感染対策を講じながら施設利用を再開している。</p> <p>現在、公民館、図書館、スポーツ施設においては、利用は通常時に戻つつあるが、習志野文化ホールやプラッツ習志野の市民ホールにおいては、コンサートや演劇等のイベントの中止が相次いでおり、通常の3割程度の利用になっている。</p> <p>富士吉田青年の家について、9月15日から日帰り利用、体育館の利用を再開した。また、10月1日から特定の方に限り宿泊利用を再開している。今年度、部屋の換気等の問題があり、現在機械の設置等を行っている。来年度以降については多少の人数制限を行う中で学校等の利用についても開始したいと考えている。</p> <p>青少年センターについて、習志野警察署や関係団体、近隣市と連携する中で学校の臨時休校時、分散登校、夏季休業時に合わせて通学路や公園、駅周辺のパトロールを強化している。</p> <p>このほかとして、例年開催している公民館の講座、市民文化祭、各種ス</p>

<p>篠宮学校教育部主幹</p>	<p>スポーツ大会については、一部を除き中止しているところであるが、現在は感染対策を講じながら開催しているところもある。公民館の講座においては、動画の配信等で実施しているところもある。</p> <p>来年度については、新型コロナウイルス感染症の感染状況も踏まえつつ、対策を講じながらしっかりと施設を運営していくとともに、講座等に関しても通常開催とあわせて動画による配信を取り入れながら、社会教育、生涯学習の推進に努めていきたいと考えている。</p> <p>市立幼稚園の新型コロナウイルス感染症への対応について説明する。 幼稚園は4月6日に予定どおりの日付で感染対策をとりながら始業式を実施した。しかしながら、県の臨時休業延長の発表や緊急事態宣言を受け、始業式翌日の4月7日から5月6日まで臨時休業とした。園は臨時休業であるが、同日の4月7日からは就労等で保育の必要がある方を対象に預かり保育を開始した。4月10日は入園式を予定していたが新入園児保護者を対象に説明のみを実施し、入園式については臨時休業明けに入園した喜びを感じられるような催しを行った。保護者の参加はなしとなったが後日催しの動画上映等を行い、入園式の代替とした。</p> <p>その後、県の感染者が増加していることから、5月29日まで臨時休業を延長し、このことにより新学期から2か月間臨時休業となることから、家庭でも幼稚園の教育活動ができるよう市ホームページを活用した体操や制作等の動画配信、各家庭への教材等の配布や電話での保護者や園児との対話を実施してきた。</p> <p>6月1日から5歳児、3日から4歳児が教育保育を開始し、6月15日から5歳児、17日から4歳児が給食を開始して通常保育時間となった。</p> <p>臨時休業に伴う教育日数の確保として、夏季休業期間を短くし、7月31日に1学期終業式、8月1日から8月23日が夏季休業、8月24日が2学期始業式、12月23日が2学期終業式である。</p> <p>今年度は行事を大きく見直し、主な行事では5歳児の鹿野山宿泊保育を中止とし代替として徒歩遠足等での自然体験活動や園内での鹿野山ごっこ、運動会や生活発表会は規模を縮小して実施した。</p> <p>今後は1月7日に3学期始業式、3月17日に卒園式、3月24日に修了式を予定している。</p> <p>今後も幼稚園、こども園、保育所等における新しい生活スタイル(習志野市版)に基づいた感染対策に努めながら子どもたちの教育保育を実施していく。</p> <p>資料の後半は市立こども園、保育所、あじさい療育支援センターの対応を記載しているので、後ほど見ていただきたい。</p>
------------------	---

令和2年度第1回 習志野市総合教育会議 会議録

宮本市長	<p>続いて、協議事項(2)「習志野市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針(案)について」説明を求める。</p>
利根川学校 教育部主幹	<p>習志野市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針(案)について、説明する。</p> <p>本基本方針(案)は3つのポイントがある。そこに絞って本日は説明する。3ページを見ていただきたい。</p> <p>1つ目が本市における適正規模の考え方についてである。</p> <p>本市が目指す教育から考えていくと、市の将来都市像「未来のために～みんながやさしさでつながるまち～習志野」が最上位にある。そしてそれを実現するために本市の教育委員会では「豊かな人間性と優れた創造性を育む習志野の人づくり」と基本目標を設定している。目指す教育を実現するために、3点挙げている。</p> <p>1つ目として、クラス替えができ、多様な個性をもつ友だちと生活することが可能で、社会性を育むことができるとともに、人間関係の固定化を防ぐことができる学校規模、2つ目として、運動や学習でクラス間の切磋琢磨ができ、互いを高めあうことや運動会などの学校行事に活気があふれる学校規模、3つ目として、複数の教員で学年の児童生徒を指導することができ、多様な視点で子どもたちの個性を見取り、教育に当たることができる学校規模、と考えている。</p> <p>このようなことから、小・中学校ともに1学年に複数の学級があることが望ましいと考えている。</p> <p>また、教員の配置から考えてみると、小学校においては増置教員というものがある。増置教員が2名いると教務主任が専任で行え、さらに音楽も専科の先生によって指導ができるということになるので、そういった規模が望ましいと考えている。</p> <p>続いて、中学校においては、全ての授業で教科担任による学習指導ができる学校規模が望ましいと考えている。</p> <p>これはどれくらいになるかというと、小学校では12学級、中学校では6学級になっている。</p> <p>国が定めている基準がどうなっているかということであるが、国では小学校中学校ともに12学級以上、18学級以下を標準とするとしている。ただし、地域の実態その他により特別の事情があるときは、この限りでないとなっている。</p> <p>4ページを見ていただきたい。このようなことから、1つ目のポイントとなるのが、小・中学校ともに、1学年に複数の学級がある学校規模を標準規模</p>

と考えているということにしている。ただし、国が示す標準規模を大きく上回る場合については、教育環境が他の学校と同様に適正に保たれるよう対応していくということを付け加えている。

2つ目のポイントが、3、本市における学校の適正配置の考え方についてである。これについては2つの視点で考えている。

1つ目は、「地域コミュニティの核としての学校」から、である。

本市教育委員会では「地域の風が行きかう学校づくり」を推進しており、学校を中心に様々なコミュニティが形成されているということで学校は地域コミュニティの核としての役割を担っている。核としての学校ということで非常に地域の中では大切であるということである。

それから(2)として、施設や敷地の有効活用の面から見ると、地域コミュニティの核ということで、結論では残していくということになっていくが、敷地や施設の有効活用の面からはいくつか検討していくことが必要ではないかというのが4、5ページにある。

1人当たりの広さも、現在はかなり違いが出てきている。次の6ページを見ていただきたい。

このようなことから、本市の考える適正配置については、まちづくりの視点を持ち、学校施設や敷地の有効活用を進め、地域コミュニティの核となっている現在の学校を可能な限り維持していく、ということの基本方針としている。

最後に、3つ目のポイントになるが、適正配置の進め方についてである。どのように適正配置を進めていくかということであるが、適正規模に満たない学校においても、地域コミュニティの核としての学校の役割は大きい、非常に大切ということはどの学校でも同じである。

しかしながら、全ての学年が単学級となった場合は、将来的に複式学級が発生することが課題であると捉えている。

そこで、全ての学年が単学級であることが推計された場合は、学校、行政、保護者、地域等の代表で、今後のまちづくりの中に学校をどのように位置づけていくのか検討する会議を設置し検討していこうということである。

では、どのようなことを検討するかというと、6、7ページにある(A)、(B)、(C)である。

(A)は学校施設の複合化・多機能化・共用化等、(B)は通学区域の弾力化、(C)は学校統合である。

まずは、複合化・多機能化・共用化等を検討し、可能な限り学校を維持していくということについて検討していく。

(2)は児童生徒数が大きく増加する学校についてである。検討委員会の中でも、習志野市の現状にあっては一部大きく児童生徒数が増えている学

	<p>校が出てきていることは指摘も受けている。それについても考えていかななくてはならないということも指摘を受けている。そこで、児童生徒数が大きく増加する学校については、特別教室の増設や一時校舎の設置などにより、他の学校と等しい教育環境の中で学べるよう対応していくということである。また、通学区域の一部変更・弾力化により、児童生徒数の大きな増加に対応していこうということである。</p> <p>ただし、既存の通学区域を一部変更するという点に関しては、地域コミュニティの核と学校を位置づけているのでコミュニティの維持が難しくなることから、原則として新たな開発により住宅地になった部分を検討の対象とするということである。</p> <p>また、一部変更する場合であるが、変更する期間を設定するなどして、中長期的には元の学区に戻していくことを示している。</p> <p>以上、この3つの点が基本方針のポイントとなっている。</p>
<p>宮本市長</p>	<p>ただいまの説明について、順次委員の意見を伺う。</p>
<p>古本委員</p>	<p>新型コロナウイルス感染症に関しては、今のような状況になるとは、去年は誰も思っていなかった。さらに本来ならばオリンピックがあったはずで、子どもたちにいかにスポーツの良さを知ってもらおうとか、そういう話であったのだが、状況ががらっと変わってしまい、世の中のルールが変わってしまったかのように、人が集まるとはいけないという中で子どもたちは成長していかなくてはいけなくなり、教育も続けていかなくてはいけなくなった。今までのルールが変わってしまったかのように状況、生活環境は変わってしまったが、その中でも教育はしなくてはいけないし、心の安定も守らなくてはいけない。もともと守らなくてはいけないものであるが、ますます安心と安全をいかに担保するかということを考えなくてはいけなくなった。</p> <p>幸いなことにICTも含めて文明が進んでいることによって、みんなが集まなくてもある程度の知識としての教育を行うことができるようになりつつあるので、ぜひそれを維持しながら、安心、安全を守りながら、かつ教育は続けなくてはいけないと思う。たとえば小学5年生ならその人にとって5年生は1回だけと、全ての学年においてそれぞれの生徒において1回しかないわけであるので、そのときに学ばなければいけないことをその必要な時期に必要な教育ができるように我々は考えなくてはいけないのではないかと考えている。</p> <p>適正規模・適正配置については、これは前からぜひやらなくてはならないと教育委員会会議でいつも話になっていた。習志野市は開発があちこちで起きることによって、地方では人がどんどん減って困っている中で、幸い</p>

<p>赤澤委員</p>	<p>なことに人が増えている。習志野市で起きている人口増加というのは局所的なものであるということと、そして、建物を作るのにはお金と時間がかかるにも関わらず、人が増えるのは時間の余裕もなく増えてしまう。まだいくつかの大規模開発なども考えられているようであるし、今人数が少なくなってきたのでこの先どうしようかと考えているところでも団地の再開発等も考えられている。これらの事を鑑みるに、習志野市の都心に非常に近い、ベッドタウンとしての状況を思うと、あまり短期的になくすとか、増やすというよりも、将来的に教育の質を担保するという事を考えて、金銭的なものもあるがゆとりをある程度持って教育できるような環境を考えていかなければいけないと思う。</p> <p>今の状況では、学区が違うことによって隣の家に住んでいるのに、行っている学校が違って、先生たちも全然違って、下手したら中学校に入るまで話すこともほとんどないかもしれない環境が生まれている。こういう環境になってしまっている現実がある中で、できるだけやはり同じコミュニティの中にいる人たちがみんな話し合えるような環境、それを作れるようにするというのが適正規模・適正配置でも考えなくてはいけない。まちは核になっており、成人式にしても中学校ごとに集まっている、ぜひそういう意味においても仲間意識とか自分たちが住んだまち、育ったまちという意味でもなるべく地域の人たちと学年ごとに、君たちは先輩だったんだよ、後輩だったんだよという形でも、まちを保つという意味でも適正規模・適正配置については考えてもらいたいと思っている。</p> <p>新型コロナウイルス関連については、小学校、中学校、高校の先生方、いきなり新学期からこういったことになり、大変苦労されたと思う。</p> <p>私も大学で教育に関わっていて、いきなりオンライン、リモートに切り替えを強いられた。ただそういったことを強いられたことによって、短時間のうちにいろいろなことをトライアンドエラーして得られたことも非常にたくさんあったというのが実感である。他大学もそうかもしれないが、本学、本学科に関しては、結果的に授業評価は上がったということがあり、大学の講義等は人数が多いので、授業によってはオンラインのほうがやりやすいことがあったり、逆に対面にしないとメンタル的に非常に良くない状況もあり得るという、ゼミやプロジェクト等そういう類いの教育もあつたりということがわかった。</p> <p>習志野市に関してIT教育の充実という方向性もあると思うが、これを機会に単純に対面ができない替わりのオンラインという捉え方ではなく、新しい可能性というかチャンスもあると思うので、新しい教育のスタイルになっていくといいのかなと、自分のことも含めて考えている。</p>
-------------	---

<p>高橋委員</p>	<p>適正規模・適正配置については、資料2の6ページに(A)から(C)ということで、対応の方向性が出されている。通学区域の弾力化とか学校統合というのは一般的に方向性として出されているかと思うが、(A)の学校施設の複合化・多機能化・共用化等というのは、将来的な構想として非常に魅力があるということも含めて、なかなか実施するとなると課題があると思うが、(A)の方向性も時間をかけて進めていけるといいのではないかと思っている。</p> <p>今、古本委員、赤澤委員が話していたことはなるほどと思ったが、違うことについて話をする。</p> <p>新型コロナウイルス感染症については、今年度学んでいる子どもたちというのは本当に苦労しているし、大変かわいそうと言えかわいそうだと思うが、一生懸命教育委員会、あるいは学校の先生が対応していると思う。</p> <p>私が思うのは、昨年度のことです。3月に学校が突然終わって、ばたばたの中に一生に一回しかない卒業式などがめちゃくちゃになっている子たちである。それは今どうなるものでもないかもしれないが、一斉休校というのは納得できなかった。普通は感染者がある程度数が増えてから、学級閉鎖なり、休校するものであって、どう考えてもおかしいと思ったが、そうは言っても危険な事例があるという話も聞いたし、教育委員会マターというよりもこれは市長を中心として考えていることだということでそれ以上は言えなかった。しかし、あのとき休校するのであれば今だってずっと休校である。</p> <p>私は市長が、感染があったときは自分が責任をとるからと言って、しっかりと対応をした上で習志野市は学校を開くということと言えなかったのかとも思う。もし学校を開いて何か起こった場合がみんな恐ろしい。しかし、大人みんなが無難な方に流れて子どもの学ぶ権利を奪ってよいのか。そのときには市長が責任をとるからと言って子どもの学びを保障することではなくてよかったのかと私は思う。もし後で市長からそれについて、私の考えが当たらないところがあったら教えてほしいと思う。</p> <p>適正規模・適正配置については、これは目標として1学年2学級以上は作りましょうというのは当たり前の話だが、現実的には習志野市において1学年6学級や8学級になって、一方で1学級のところがどんどん出てきている。これは客観的に言って無策と言われる状況である。私も批判される側であるが、何をやっているのかと言われてもおかしくないと思う。</p> <p>いろいろな理由がある。もちろん地域コミュニティも大変大事だと思う。しかし、地域コミュニティは主として大人の問題ではないか。地域コミュニティが大事で単学級にすると、結局子どもはクラス替えや仲間との交流が減るし、専科の先生がいなくて、そういう様々な不利益を受けるわけである。そ</p>
-------------	---

<p>馬場委員</p>	<p>れを何とかしないで、教育委員会と言えるのかと思う。しょうがないとか、将来複式学級が見えてきたときにやろうとかいう声が聞こえるが、客観的に見るとこれはひどい状況だと私は認識している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に関しては、保護者の一人として本当に子どもたちの心の状態等にも、いろいろ聞く限りでは十分先生方が対応していただいたと感謝しているところである。先生方は新型コロナウイルスの対策等に加えて、今後はオンライン授業の講習等も加わってくるとことなので、本当に大変な苦勞であると思う。夏頃の教育委員会会議でも話が出たが、子どもたちもちろんであるが先生方の体調、気持ちの面等にも十分目を向けていただきたいと、今もそういうふうに思っている。</p> <p>適正規模・適正配置に関しては、地域差があるのは住宅の事情等もあるので、ある程度仕方ないのかなと思うが、やはりグラフで見ると大分ばらつきがある。今高橋委員が話したように、不利益があってはならないと私は思うので、その辺りを今後どのようにしていくかというのは十分策を練ってほしいと思う。</p> <p>学校の規模を、今の学校数を変えずにといったところを基本にしているようだが、それに関してはそう反対でもない。小規模の特認校というものもあるとおり、そういったものを特性を生かしながら維持という方向はあるのかなと思っている。その辺りも踏まえながら、いろいろ考えていただきたいと思っている。</p>
<p>小熊教育長</p>	<p>私から事務局の責任者として話をさせていただく。今日、開始時間が遅れてしまったのは、その前に教育委員会会議を開催していたもので、今話を聞いていただいてもわかるかと思うが、私どもの教育委員会会議というのは率直に様々な意見をいただいている。この方向でという一つの方向だけでやっているのではないので、どうしても時間がかかってしまう。様々な意見をいただく中から、よりよいものを選んでいくということで進めているので、今委員の方々から話があったのは正にその表れかと思っている。</p> <p>感染症対策については手前味噌になるが、対策本部とは情報共有をしっかりとしながら、一体となってやってこられたという自負はある。そういった意味では、拡大防止には何とか取り組んでいるのでは、それからクラスタの発生は食い止めているのかなという状況である。</p> <p>しかしながら、今話があったように市民の皆さん、子どもたちにはかなりの我慢をお願いしている。それは取りも直さず手探りの状態でやってきたので、ここから教育委員会の役割は、これからウィズコロナであったり、アフターコロナであったりなのかもしれないが、やはりどういう状況であっても着実</p>

<p>宮本市長</p>	<p>に進めていかななくてはいけないということは強く事務局の責任者としては感じているところである。ここからが教育委員会のほうは勝負なのかなということで、いろいろ意見をいただいた部分に関しても取り組まないといけないと思っている。</p> <p>それから適正規模・適正配置についても、これは非常に甘いと言われるかもしれないが、教育委員会としては課題から目を背けずに直視できる体制は整ってきたのかなと考えている。ただ、様々な問題もいろいろ出ているということも事実である。私自身も学校教育部時代に東習志野のユトロシア地区の児童増について形を作った経験があつて、並大抵ではないと、動かすということはずごく難しい問題であるということにはわかっているが、やはり地域住民の思い、子どもたちの思い、また今指摘のあつた教育環境の問題等も含めて、やるべきことはたくさんあると、一つ一つ解決していかななくてはいけないと捉えている。</p> <p>私の意見を述べさせていただく。</p> <p>初めに古本委員からオリンピック・パラリンピックの話があつたが、本来であつたら、今日の会議はオリンピック・パラリンピックで誰が金メダルをとつたとか、そのような話題に終始するような日だったかもしれない。</p> <p>新型コロナウイルスについては、いろいろな意見がある。皆さんに理解いただきたいのが、基本的に昨今の命を脅かすような感染症は局所的に起きるものであり、基本的には感染症法が適用されるわけであるが、今回のような新型インフルエンザやコロナウイルスは、広がり大きいものについては、これは地域の問題ではなく国の問題として特別な法を作って、国として対応すると認識している。</p> <p>そういう中で緊急事態宣言が出て、このような形になった。当時を振り返るとコロナウイルスの実態が全くわかっていない状況の中で、今では数字が過去のこととしてはっきりしているので、緊急事態宣言のときより今日のほうが多いではないかということにはなるが、この感染症はとにかく明日にならないとわからないというところであり、今、皆さんはマスクをしている。それは明日発症したときに今日一番広げる可能性があるウイルスだからである。常に明日にならないとわからないということがこの感染症の非常にやっかいなところであり、緊急事態宣言が出たものと解釈している。</p> <p>一方で今はいろいろな知見が積み重なってきて、私も動画配信の作成などを通して自分なりにいろいろ情報を集めているが、大体会食、特に昼よりも夜が危ないと、リラックスした環境の中でマスクを外しているところであつっていると。大体感染するメカニズムや対処策というのが出てきている。なので、これだけ多く感染者が増えてきているにもかかわらず、世の中は止</p>
-------------	---

	<p>まっていない。</p> <p>むしろ世の中が止まってしまうことによる、例えば自殺者の件数は7月から前年をずっと上回っている状況で、大体男性と女性の自殺の比率は常に7対3なのだそうだが、今は女性が4割に上がり、6対4になっているそうである。</p> <p>高橋委員が話していたように、正月明けに成人式が予定されており、開催の是非も感染状況によって変わってくる。今のところ実行する体制でやっているが、これからいろいろな判断が出てくると思う。これには教育長をはじめ、教育委員の皆さんにも心配をかけるが、そういうことを縦横斜め、いろいろな分析をしながら考えないといけない。成人式の後のことを考えると成人式をやらないほうがいいのではないかという意見もある中で、私たちが考えることはまず成人式をやるということであって、アフターの本来自由なことについてが不安だから成人式をやりませんというそういう考え方が成り立つのだろうかということもしっかり検討しないといけないと思う。</p> <p>コロナ禍において今起きている事象と、本来あるべき姿、あるいは法令、いろんなことを正に縦横斜め、いろいろと検討した中で慎重に行っていかなければならないことだと認識している。</p> <p>1週間先のことも言えないような状況で、急な展開が多々起きてしまうことが予測されるが、これについては理解いただきたいというのが今の私の心境である。</p> <p>一方で、少し前に課外活動をやっている高校生たちが一堂に会したテレビ番組があり、その中で印象的だったのが、子どもたちの中から「私たちがコロナ世代と言ってかわいそうだと思わないで」という意見が一番多かった。いつの間にか私たちは子どもたちにレッテルを貼ってしまっているのではないかとほっとさせられた。いつの時代もその時代ならではのものがあるわけで、今は正に新型コロナウイルス禍である。いずれにしても常に一生に一回という機会を特に積み重ねている子どもたちに無用なレッテルを貼らないようにしていく冷静さも必要ではないかなと思っている。</p> <p>適正規模・適正配置に関しては、財政を担っている市長部局としてもいろいろな情報交換をしている。その中で人口に触れた意見があったが、習志野市の場合は幸いなことに建物が建てばそこに人口が入ってくる。逆に言えば人口が入ってくるからこそ建物が建つのであるが、そういうようなまちである。</p> <p>このことに鑑みて、今どちらかというと少子化の傾向であるが、学校の考え方についてあまり早急なことではできないのではないかとということと、一方で高橋委員が話をしている中で資料2の5ページを見ていただきたいが、ここに施設や敷地の状況という一覧表がある。この中で私が非常に興味深い</p>
--	---

と思ったのは、例えば鷺沼小学校と実籾小学校の敷地面積が約1万2,000㎡と約1万1,000㎡となっている。一方で、秋津小学校と香澄小学校の敷地面積は両方とも約2万8,000㎡ある。これはいわゆる埋立造成の新しいまちづくりの中でかなりゆとりを持った作り方がされている。表の横の列に1人当たりの平米数が書いてあり、これを見れば歴然だが、今秋津、香澄、あるいは国道14号以南はまちの歴史とそこに住んでいる人の年代がほぼ一緒という中で、少子化が起きている。一方で新しいまちづくりをしようとしても敷地に余裕がない。そういう中でこの敷地の広さというものについて、いろいろ考えられることがあるのではないかと。これがその次のページに書いてある、まちづくりの視点を持ち、学校施設や敷地の有効活用を進め、地域コミュニティの核となっている学校を維持していくという意図である。

ここの部分は、単純に児童生徒の数ということではなく、その児童生徒というのは流入してくる人口と密接に関係してくるということで、この敷地面積等を見る中でいろいろな考え方ができるのではないかと、こういうことは市長部局、私からも言ったことがある。

東習志野小学校が児童数でいうと多いほうから2番目、谷津小学校に次いで多いが、東習志野小学校もかつて20年くらい前だったか、本当に児童数が少なくなってしまうと実花小学校と一緒に……といった話が出たときが実際にあった。ところが、工場跡地が撤退し、大きな敷地ができてそこにマンションができたことによって、児童数が市内で2番目に多い状況になっている。これは誰も予想していなかった。そのようなイメージがひとつ私の中にはある。であるので、この適正規模・適正配置のことをしっかり考えていけば、ちょっとした工夫ができるのではないかと感想を持っている。

一方で過大規模校は市議会からも意見をいただいております、なかなか解決には至っていない状況である。これについては皆さん案内のとおりかと思うが、現在の都市計画の考え方は誰が主体者になったとしても基本的には個々の住んでもらう方、つまりは民間の自由というものが最優先される計画になっている。であるので、ちょっとした景気の変動等でその計画が大きく変わる時がある。谷津小学校については、リーマンショックの時に景気全体が下がる中で、従前は同じマンションの大きさでも大きな部屋を少ない部屋数で用意していたものが、リーマンショックになった途端に細分化されて、価格が半額あるいは3割になったので、そこに若い方々がどっと入ってきたわけである。そういうことがあったがために当初の同じ外観のマンションではあるが、居住者の年代や世代、世帯数が大きく変わってしまったということが谷津小学校の大きな変動、そして一部谷津南小学校にバスで通ってもらうという形になっている。

令和2年度第1回 習志野市総合教育会議 会議録

	<p>そのようなこと等があるのでこのことは当然今後のまちづくりにおいては反省点というところでもある。例えば、これから児童数がどっと減っていくというような学校の一つを閉校という形にして、その後まちづくりをするとまちづくり如何によっては、今度は学校が足りなくなってしまうようなことも発生してしまうわけである。そういったことやいろんなことを考えながら練った計画と理解している。この計画が成案になった際には私ども市長部局もしっかり対応させていただく所存である。</p> <p>いずれにしても今すべきことは新型コロナウイルス対策をしっかり施してコロナ禍を乗り越えることだと感じている。いろいろな制限がかかる中ではあるが、一生懸命やっていくので何卒よろしくお願ひしたい。</p> <p>ただいま出された御意見等については、担当部局において検討をお願ひする。</p> <p>日程第3を終わる。</p> <p>日程第4、その他として、事務局から説明があれば伺う。</p> <p>事務局 特にない。</p> <p>宮本市長 日程第4を終わる。</p> <p style="text-align: center;">閉 会</p> <p>午後4時10分終了</p>
--	--